

## ゼミナール紹介

担当者名	飯野 守
e-mail アドレス	iiiinox@bunkyo.ac.jp
研究室	3306 教室
在室曜日・時限	火曜、水曜、木曜の昼休みおよび3限はできるだけ在室する予定です。 ※入構制限期間中は原則としてオンラインないしはメールでの対応になります。
個別相談など (日時・方法)	別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	情報社会と法、日本国憲法、現代社会と著作権
2020 年度担当科目	情報社会と法、現代社会と著作権、知的財産法、日本国憲法ほか
授業概要	<p>本ゼミナールでは、メディア/コミュニケーションと法に関わる課題を扱います。とはいうものの、入り口は何でも構いません。例えば、二次創作、海賊版サイト、あるいは、ソーシャルメディアなどです。各自が関心を持ったことを素材として、法的な課題としてどう捉えるか、解決の方向をどう考えるかを学びましょう。</p> <p>春学期は基礎知識を確認するための基本的文献の購読、並びに、個人の研究の準備を行います。秋学期は主として各自が決めた研究テーマについて報告をしてもらい、皆で討論をしながらテーマを深めていくこととします。</p> <p>メディア/コミュニケーションと法に関わる様々な課題について、その問題の所在や解決すべき課題を発見でき、どのような解決方法が適切であるかを自分で判断することができること、さらに、これらのことについての確に発表あるいは表現することができる力を身につけることを全体の達成目標とします。</p> <p>ニュースで報道されるようなトラブル事例や、身の回りにある素材について法的な視点から分析して解明する力を身に付けることは将来必ず役に立つはずです。</p> <p>なお、希望者には「知的財産管理技能検定」の受験を勧めています。</p>

## ゼミナール紹介

担当者名	石井健一
e-mail アドレス	ishiiken@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3315
在室曜日・時限	金曜 2 限
個別相談など (日時・方法)	別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	消費者行動論、マーケティングリサーチ演習、マーケティングリサーチ、社会心理学、情報社会における計量社会学入門、多変量の統計データ解析、調査集計法 A
2020 年度担当科目	消費者行動論、マーケティングリサーチ演習、マーケティングリサーチ、マーケティング、総合演習 B
授業概要	消費者行動またはメディアに関するテーマを具体的に設定して、卒業論文作成に向けて実証研究を行う。たとえば、テーマの例として、消費行動とライフスタイル、SNS などアプリの利用、広告の内容分析などがある。アンケート調査、内容分析、テキストマイニング、インタビュー調査、観察調査などの方法の中からデータ収集の方法を選ぶ。具体的なテーマは、教員と相談し、関連する先行研究の論文をいくつか読んでから決める。多くの学生はアンケート調査を行うことになるので、統計分析の基礎知識がある学生が好ましい。

## ゼミナール紹介

担当者名	石野 正彦
e-mail アドレス	ishino@bunkyo.ac.jp
研究室	3208 研究室 (3号館2階)
在室曜日・時限	秋学期はオンライン授業のため、在室日時は未定です。※事前にオンライン予約して下さい。いつでも、オンラインで個別相談しますので、事前にメールして下さい。⇒ ishino@bunkyo.ac.jp
個別相談など(日時・方法)	別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに関連する科目	情報サービス産業の理解、情報社会の分析と理解、ビジネスデータ処理演習、情報社会のサービス企画、ビッグデータの社会への応用 ※これらの科目を履修していなくても特に問題はありません。未来の情報社会に関心があってスマホのアプリが使える、ITの専門知識やプログラミング技術の必要性はありません。
2020年度担当科目	情報サービス産業の理解、情報社会の分析と理解、ビッグデータの社会への応用、キャリア研究C、ビジネスデータ処理演習、情報システムの品質と信頼性、ソフトウェアの構成とテスト、総合演習A・C
授業概要	<p>本ゼミナールは担当教員が専門とするデジタル・IT領域をテーマとして体験型ゼミナールの授業を通して、社会でのデジタル・ITの応用分野や将来性についての理解を深めることを目的とする。なお、本ゼミナールは下記から自由にテーマを選択し、学生自身の関心がある分野を研究する。また、各人のゼミナールの成果は授業や合宿などで発表し、IT実務経験者からの講評を得る。</p> <p><b>1. ゼミナールの到達目標とコンセプト</b></p> <p>①デジタル社会の進化に向けた最新技術を体験し、実学応用能力の獲得を到達目標とする。          ②デジタル社会の未来予想と夢を探求する。(注1)実学能力とは社会に出て有効な応用力、発想力、閃き          ③IoTやAI活用のビジネスモデルを創成する。(注2)ビジネスモデルとは儲かるアイデア、しくみづくり          ※IoT=Internet of Things, AI=Artificial Intelligence・人工知能</p> <p><b>2. ゼミナールの主なテーマと活動概要</b> ⇒下記の候補テーマから自由に選択する。</p> <p>①情報社会で進化するスマホアプリ、ウェアラブルセンサー、スマートスピーカー、IoT, AI, 5G, RPA, AI作曲・翻訳, ロボット, AR・VR・MR・CG, 3Dプリンタ等を活用した応用研究や実体験, 各種の制作          ②デジタルトランスフォーメーション, サブスクリプション, シェアリングエコノミーのビジネスモデルの創造          ③生活やスポーツ科学でのICT活用～IoT, AI, クラウド, スマホアプリ, ウェアラブル等の応用提案          ④電子マネー・キャッシュ社会, Webマーケティング, 「コト消費」のトレンド等の分析と将来動向          ⑤SNS, 動画サイト等の活用によるビジネスモデル(例)YouTube, Facebook, LINE, Instagram等の活用</p> <p><b>3. ゼミナールの授業日、ツールと成績評価</b></p> <p>①毎週、ゼミナールに適した教室で実施する。テーマに必要な教材やツールを提供する。          ②研究成果と学習態度が優れているか、学期当初計画の目標達成度により成績を評価する。</p> <p><b>4. 将来のIT応用ビジネスへの展開とキャリア研究</b></p> <p>①各成果のビジネスモデル展開, 事例研究, キャリア研究, スペシャリスト, 企画力の研磨          ②論文作成, プレゼンテーション, リーダシップ能力と資格取得, 潜在能力のブレーク法          本ゼミナールは将来の情報社会の生活で不可欠な情報技術を駆使してアイデアを創造する。様々な体験で先進情報社会へ飛躍できる実学の養成とIT活用で情報社会をデザインする!</p> <p>《メッセージ》IT応用ビジネス体験から、情報社会のニーズにマッチしたITメディア構想や就活に役立て、ゼミ仲間と一緒に考え、実体験を通じて目標成果の達成や作品を制作します。IoTやAIの多種のスマホアプリを巧みに活用して「イノベーション的な発想」を創造しよう!</p>

## ゼミナール紹介

担当者名	大橋 洸太郎
e-mail アドレス	kohashi@bunkyo.ac.jp
研究室	5号館4階 5406室
在室曜日・時限	火曜日 3・4限
個別相談など (日時・方法)	別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	データ分析に関する科目
2020年度担当科目	データ分析総合演習 情報技術総合演習 基礎演習A 基礎演習B 総合演習B 統計学入門 調査集計法A 調査集計法B 情報社会における計量社会学
授業概要	<p>本ゼミナールではデータ分析を行うことを主眼に置いています。データをまとめ、その内容の重要なポイントを読み取り、分かりやすく相手に伝える、そのような力が得られるようにしたいと思います。</p> <p>本ゼミナールでは、以下の2つの目的を持っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①データサイエンス分野の分析手法の習得</li> <li>②分析に基づいた商品開発の体験</li> </ul> <p>春学期には、データ分析に用いるプログラミング言語の使い方やデータハンドリングの手法を身に着けることを最初に行います。その後、習得したプログラミング能力を活かしたデータ分析手法を学び、グループや個人での分析や発表を通じて、エビデンスに基づいたコミュニケーションを行うスキルを磨きます。プログラミング言語としては「Python」を想定しています。</p> <p>秋学期には、調査を通じて収集したデータを基に商品開発を行うプロセスの一例を学びます。まず商品コンセプトのポジショニングを行い、ニッチな視点を見出し、新たなコンセプトを設計します。次にそれらのコンセプトに相応しい商品名を選定し、コンセプトに含まれる要因の効果の大きさを測定します。グループによる商品開発を通じて、チームとして成果を作り上げるための協調性を磨きます。また、新たにデータ分析用のプログラミング言語を学び、応用力を高めます。現在は「R」を想定しています。</p>

## ゼミナール紹介

担当者名	佐久間 勲
e-mail アドレス	isao@bunkyo.ac.jp
研究室	3313 研究室
在室曜日・時限	見学、相談などを含めて web サイト ( <a href="https://w.atwiki.jp/isakuma/">https://w.atwiki.jp/isakuma/</a> ) に掲載します。
個別相談など (日時・方法)	別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	社会心理学、統計学入門、調査集計法 A・B を履修していることが望ましいです。履修していない場合は、次年度履修することを推奨します。
2020 年度担当科目	社会心理学、コミュニケーション戦略、社会調査演習 I・II など
授業概要	<p>本ゼミナールは、社会心理学研究（実験、調査、内容分析、二次データの分析を実施し、そこで得られたデータに基づいて主張をするタイプの研究）を実施できる能力を育成することを大きな目標とします。社会心理学のうち特定の研究テーマを取り上げることはありませんが、例としては、「スマホ依存がコミュニケーション能力に及ぼす影響」「情報雑誌の内容分析」「SNS 利用が対人関係に及ぼす影響」「送りの専門性が説得の効果に及ぼす影響」「姿勢やしぐさが印象に及ぼす影響」「ステレオタイプが対人認知に及ぼす影響」などがテーマとして挙げられます（もちろんこれらに限定しません）。</p> <p>本ゼミナール内での具体的な活動は以下の 3 つの課題になります。</p> <p><u>(1) グループ研究</u>：グループである特定のテーマで実証的研究を行い、その成果をレポートにまとめて、プレゼンテーションをします。本年度は対面授業ができなかったために実施しませんでした。2019 年度は自分たちで質問項目を作成して「地域」「家電メーカー」「アパレルショップ」に対する態度とイメージを測定するという実習を実施しました。</p> <p><u>(2) 文献の収集と発表</u>：各自の関心に基づきテーマをひとつ決めて文献を収集し、それらをまとめたものをゼミナールで発表してもらいます。これまでのテーマ例としては「ネット依存の予防と治療」「流行とその原因」「うわさと集合行動」「ネット上の情報の信頼度」などです。発表を通して、社会心理学の研究内容はもちろんのこと、研究方法、研究論文の書き方についても理解を深め、4 年次の卒業研究に結びつけます。</p> <p><u>(3) 卒業研究のテーマの検討</u>：4 年時に取り組む卒業研究のテーマを検討します。特にテーマは決まっていますが、タイプとしては自分で収集したデータ、もしくは既存のデータを元に何かを主張するタイプの研究になります。これまでのテーマ例としては、「LINE 利用が家族関係に及ぼす影響」「スマホゲームの依存の原因」「ディズニープリンセスの描かれ方の変化」「子ども向け番組の登場人物の内容分析：仮面ライダーシリーズを対象とした研究」など質問紙調査や内容分析に基づくものがおおいです。</p>

## ゼミナール紹介

担当者名	関 哲朗
e-mail アドレス	seki@bunkyo.ac.jp
研究室	3415
在室曜日・時限	コロナ禍で不定となっておりますのでメールで問い合わせてください。
個別説明会 (日時・場所)	Web 会議システムにより実施しますので、事前にメールを貰えれば招待状を送ります。 1 回目 10 月 8 日 (木) 15:00- 2 回目 10 月 19 日 (月) 20:00-
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	Web 会議システムにより実施しますので、事前にメールを貰えれば招待状を送ります。 水曜日 10:00-12:00
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	情報社会学科の専門科目など
2020 年度担当科目	プロジェクトマネジメント、成功のプランニング、人間愛と情報社会など
授業概要	<p>本ゼミナールでは<b>情報社会の困ったことを解決すること</b>をテーマに学習を進め、卒業論文としてまとめていきます。ゼミや卒業論文のテーマは、教員が理解、指導できる範囲であれば、学生の提案を受け入れます。</p> <p>また、将来の進路を考える機会も設けていますので、積極的に参加して欲しいと思います。</p> <p>ゼミや卒研で学ぶべきことの1つは、<b>情報社会学科で学びを他人に説明できるようになる</b>ことです。これは、自らのアイデンティティを得ることでもあり、職業に就くためにも、その後にも自らの利益の基礎になるものです。</p> <p>以下は、先輩たちが選択したテーマの一部です。</p> <p>① <u>どのように<b>情報システム (IS)</b>をつくるのか？</u></p> <p>これは、情報社会の基本、かつ、プロジェクトマネジメント (PM) の大きなテーマです。設計、プログラミング、テストの自動化が進む一方で、<b>情報社会や企業等のために何を作るべきか</b>という超上流工程や、<b>テレワーク下でのチームの在り方</b>が問題になっています。担当教員は、PM 学会会長、国の情報システム設計の審査委員長などを務め、国内の主要 IT 企業との強い関係を持ち、IS 開発の最先端を知り尽くしています。</p> <p>② <u>情報社会の到来による<b>従来文化の衰退</b>、新しい<b>犯罪 (防犯)</b>、新しい<b>ビジネスモデル</b></u></p> <p>コンピュータ利用の歴史は、やっと半世紀です。人間の手に余る強大な情報やその処理技術は様々な問題、課題を引き起こしています。<b>書籍や放送文化、漫画やアニメ、ゲーム</b>などの作り方、<b>ビジネスの衰退や変化、国際分業の進展</b>などが検討テーマになります。担当教員は、セガやバンダイナムコなどの支援や、CEDEC での講演などの経験があります。</p> <p>③ その他</p> <p>IS 関連訴訟の<b>裁判事例の解析</b> (ADR や企業支援の経験あり)、<b>教育や医療・看護</b>への IT や PM の活用 (医療機関等との共同研究の経験あり)、ときどき希望のある<b>数理統計学の話</b> (専門分野の1つ) などの他、<b>食料問題、エネルギー問題</b>などを選択する学生もいます。</p>

## ゼミナール紹介

担当者名	西尾好司
e-mail アドレス	<a href="mailto:Knishio3@bunkyo.ac.jp">Knishio3@bunkyo.ac.jp</a>
研究室	3403
在室曜日・時限	水曜日 3限目（会議の場合もあるので面談等必要な場合は事前に連絡下さい）
個別相談など （日時・方法）	別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	情報社会における問題発見と解決、情報と企業のイノベーション、情報社会における ビジネスモデル、ビジネス発想法
2020 年度担当科目	
授業概要	秋学期終了時に卒業研究のテーマや研究方針を確定すること、卒業研究のための基本的な事項を習得することを目的として開催。その他に、文章を書く、資料（レジュメ）を作成する習慣作りも重視する。 マネジメントに関する書籍や資料を通じて、リーダーシップ、チーム作りなどの組織や人の役割、ビジネスモデルなど、各自の関心を具体化していく。なお、書籍や資料は企業だけでなく行政（公共）志望の学生にも対応できるように配慮する。 詳しくは情報社会学科ゼミ説明会資料をご参照ください。 麵ダイヤ説明はオンラインで随時開催するので、事前に連絡をください。

## ゼミナール紹介

担当者名	西川和
e-mail アドレス	nishikaw@bunkyo.ac.jp
研究室	3302
在室曜日・時限	月、火(本年度はコロナ対策のため、在室しないことも多いです)
個別相談など (日時・方法)	別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	司書課程各科目
2020 年度担当科目	データベース入門、図書・図書館史、基礎演習 B、図書館情報技術論、情報サービス論、情報サービス演習、総合演習 A、総合演習 C、システム開発技法、データモデリング、ゼミナール、卒業研究
授業概要	<p>本ゼミナール担当者の研究範囲は図書館情報学、書誌学、デジタル人文学です。なお、図書館情報学は図書館のサービスや資料に限らず、検索システム、情報行動と幅広い分野を含んでいます。研究範囲内のテーマはもちろん、それ以外の研究テーマについても学生の熱意には応えます。現 4 年生以上(司書課程の開講前に入学)は SNS の利用やゲームクリエイター、報道、ゲームアーカイブについて調べております。</p> <p>ゼミでは 3 年の春学期では各自が興味を持った文献を読んでまとめ、それをもとに議論することを通じて最新の研究を把握します。秋学期は卒業論文に向けて、春よりも明確な方向性をもって論文を探し、内容をまとめたうえで議論をしていくことになります。4 年ではそれまでに得た知識をもとに卒業論文執筆に向けた調査を進めていきます。</p> <p>合宿などの授業外活動はやるかどうかも含めて学生の意思を尊重します。ただ、せっかくゼミでやるなら、ただ遊びに行くのはもったいないので、合宿なら地方の図書館を訪問するなど、ゼミでしかできないようなことをしたいと考えています。</p> <p>論文を探し、読むことは授業時間外に各自で取り組んでもらいます。個人で文献と向き合う時間を多くとるため、地道に努力をする学生や文章の読み書きを好む学生には向いています。</p>



## ゼミナール紹介

担当者名	松本修一
e-mail アドレス	
研究室	1115 研究室
在室曜日・時限	金曜以外はほぼ毎日いると思います。
個別相談など (日時・方法)	別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	特になし
2020 年度担当科目	社会システムモデリング、経済性の科学、等
授業概要	交通関係の専門書および研究論文を交替で読む輪講および各自が教員とともに相談しテーマを決めて行う研究の2つを並行して行うことを予定しています。このような専門的な研究経験を通じ、今後社会に出る際必要とされる、論理的思考能力、プレゼンテーション力など様々な素養を身に付けることが出来ます。また、SPI 対策、エントリーシート作成指導、インターンシップ先の紹介など就職対策も学内でも有数の実績があります。

## ゼミナール紹介

担当者名	吉田 知加
e-mail アドレス	cyoshida@bunkyo.ac.jp
研究室	3312
在室曜日・時限	事前にメールにて連絡願います。
個別相談など (日時・方法)	別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	「企業活動と情報システム」「情報化要求の分析とソリューションの提案」
2020 年度担当科目	「企業活動と情報システム」「情報化要求の分析とソリューションの提案」 「システム分析」「システム設計」「総合演習 A」「基礎演習 B」「総合演習 C」 「海外研修 A」「海外研修 B」
授業概要	<p>【ゼミナールⅠ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各自が希望する特定分野（業種・業態、技術等）について、教員とテーマを決め、文献を調査により研究領域を限定していくことを学ぶ。</li> <li>● 指定テキストから研究論文の構成、書き方を学習する。</li> <li>● 「ICT が実際どのような現場の問題をどのように解決していけるか」を知る機会として IT 企業訪問を実施する。（オンラインでも実施。）</li> </ul> <p>【ゼミナールⅡ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ゼミナールⅠでの各自のかテーマについての文献調査を深める。</li> <li>● データ収集のための調査、および分析の方法を学ぶ。</li> <li>● アンケート調査の実施・およびそのデータ分析を実施する。</li> <li>● 研究論文作成のプロセスを個人プロジェクトとして遂行し、論文作成演習として学会への投稿と発表を目指す。</li> </ul> <p>ゼミナールを通じて、以下の実践的スキルを修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 課題（問題）分析</li> <li>② 要件（ニーズ）の開発および分析</li> <li>③ 文献調査</li> <li>④ 調査計画から実施分析までの遂行</li> <li>⑤ 情報化ソリューションの提案</li> </ol> <p>また、有志による学会論文の執筆を奨励します。</p> <p>本ゼミナールでは学士論文の作成することも目標に、それに必要な問題を見つけ解決する力、分析する力、及び提案する力を培うことを狙いとします。</p>

## ゼミナール紹介

担当者名	新任 A (社会・安全システム科学・社会学)
e-mail アドレス	
研究室	
在室曜日・時限	
個別説明会 (日時・場所)	
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	
選抜方法	GPA (100 点) : GPA の値を 100 点満点に換算して採点する。
ゼミナールに 関連する科目	
2021 年度担当科目 (予定)	総合演習 A、プログラミング I、総合演習 C、プログラミング II、ビッグデータ解析の社会への応用、データマイニング 等
授業概要	2021 年 4 月着任予定。 個別相談は、学科長の佐久間、または教務委員の石野が代わりに実施します。希望する学生は必ず個別相談を受けてください。